



▶ 横浜市衛生研究所では、所内で実施した試験検査などの結果に解説を加えて、検査情報月報を発行しています。



2024年12月発行

横浜市内のマダニ類調査結果（令和5年度）

▶ ダニ媒介感染症は、病原体を保有するダニがヒトを吸血する際に病原体を媒介することによって起こり、特に近年では急性重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が問題となっています。横浜市では市内の緑地や公園において、マダニ類の生息状況調査を行い、市内に生息するマダニ相を把握するとともに、捕獲したマダニ類の SFTS ウイルス遺伝子検査を行っています。

主な結果 ▶ 捕獲されたマダニ類は、**キチマダニ、フタトゲチマダニ、アカコッコマダニ、ヤマトマダニ、チマダニ属の一種の5種、計532個体**(円海山511個体、富岡総合公園21個体)でした。
▶ 成虫及び若虫の一部について、SFTSウイルス遺伝子検査を行いました。いずれの検体からも**SFTSウイルス遺伝子は検出されません**でした。

食品中の動物用医薬品検査結果（令和6年4月～9月）

▶ 動物用医薬品は動物の疾病の治療、予防及び発育促進の目的で使用されています。畜水産食品中に残留する動物用医薬品が人の健康に害を及ぼすことのないよう、消費者庁は動物用医薬品について残留基準を設定しています。

▶ 当所では、市内流通及びインターネット購入品の畜水産食品について検査を行っています。今回は、医療局食品専門監視班が令和6年4月、7月及び9月に収去及びインターネットで購入した食品の検査結果を報告します。

主な結果 ▶ 4月には、牛の筋肉3検体、豚の筋肉3検体、牛の脂肪3検体及び豚の脂肪3検体の計12検体について、7月には、すずき目魚介類3検体(マダイ1検体及びブリ2検体)、さけ目魚介類2検体(ギンザケ及びトラウトサーモン各1検体)、エビ2検体、うなぎ蒲焼2検体及びその他の魚類1検体(パンガシウス)の計10検体について、9月には、牛の筋肉2検体、豚の筋肉7検体及び鶏の筋肉2検体の計11検体について、検査を行いました。
▶ これら**全ての検体が、全ての項目で不検出**でした。

横浜市衛生研究所WEBページ情報（令和6年11月）

▶ 衛生研究所は保健所と連携しながら、科学的・技術的支援機関として、市民生活に密着した健康・安全・安心に関する試験検査や調査研究を実施しています。また、これらの業務で得られた感染症、保健、食品衛生、生活環境衛生、薬事に関連する情報を、WEBページなどで公開しています。

主な結果 ▶ **インフルエンザ**の市全体の定点あたりの患者報告数は、2024年8月下旬(第34週0.19)以降、緩やかな増加傾向が続き、第43週(10月21日～10月27日)に1.07となり、**流行開始の目安となる1.00を上回りました**。11月中も増加が続き、第48週は**6.25**でした(最新週(第50週(12月9日～12月15日))は18.91です)。